

# 平成30年度第1回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（1日目）

日 時：平成30年6月16日（土）

午前8時45分～午後4時

場 所：市役所市民防災館4階食堂（レストラン Pomme）

出席者：審査委員 土井委員、安田委員、鴻野委員、齋藤（秀）委員、柴田委員、山形委員、齋藤（紀）委員、三橋委員、熊木委員、一條委員、木田委員、川村委員（事業番号4まで）

市民協働政策課 佐藤課長、堀川補佐、中村係長、齋藤主査、阿保主査、村上主事、菊地主事

## 1 公開プレゼンテーション・審査会

### <プレゼンテーション・審査方法>

- ・1事業ごとに公開プレゼンテーション・審査を実施。（審査は採点方式によって決定。）  
ただし、申請金額が20万以下の事業については、公開プレゼンテーションによる事業説明を申請団体の任意とする。事業説明を希望しない場合は、市の担当者による事業説明を実施する。
- ・審査委員が申請団体に所属する場合は、プレゼンテーションから審査まですべて外れる。

#### （公開プレゼンテーション有）

1. プレゼンテーション …15分程度  
（7分以内で事業内容の説明。残り時間で質疑応答）
2. 審査 …20分程度  
（事業内容・金額について審議後、採点表に記入）
3. 採点結果発表 …採点表集計後、休憩ごとにまとめて発表

#### （公開プレゼンテーション無）

申請団体のプレゼンテーションによる事業説明を省略し、1事業につき15分程度とする。（7分以内で市担当者による事業説明。残り時間で質疑応答）

### 【審査項目】

審査項目	
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している

	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性（継続事業については発展性）が期待できる
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる

### 【審査採点】

区 分	評 価
高く評価できる	10点
「高く評価できる」と「普通」の間の評価	8点
普通	6点
「普通」と「あまり評価できない」の間の評価	4点
あまり評価できない	2点
評価できない	0点

### 【決定方法】

採択…出席委員の合計の平均点が60点以上、かつ、各審査項目の平均点が3点以上

### 《審査内容》

#### ●20：ギネス記録も持つ!!津軽の笛が大集合！ 第6回 津軽笛博覧会

／津軽笛地域づくり実行委員会

#### 【質疑応答（抜粋）】

Q：講師等謝礼に計上されている「全日本横笛コンクール上位入賞者への謝礼」について教えていただきたい。

A：笛博覧会の前日に開催する全日本横笛コンクールの上位入賞者の中から、笛博覧会に出演してくれる方に対する謝礼である。支払える額は決まっているので、翌日の笛博覧会まで残って演奏してくれる人が多ければ1人あたりの謝礼が減ってしまうが、半分ボランティアのようなかたちでお願いすることにした。

Q：これまで毎年秋に実施してきたが、ねふたまつりの時期にねふた囃子の指導講座を行うなど開催時期を変えることは考えたことはあるか。

A：開催時期をねふたまつりの前にする案が出たことはあるが、メンバー全員ねふたに参加する側でもあり、各所属のねふただけで精いっぱいになってしまうため、ねふた前の開催は難しいという結論に至った。現在の開催時期は、シルバーウィークに開催することで参加が増えるということと、一通り祭りが終わった後にもう1つ盛り上がることを作りたいということで設定している。

Q：継続6回目になるが、最初の頃と比べて、この5年間の間でどのような変化があったか教えていただきたい。

A：始めた頃は、これから笛を始めようという人達が多かった。何度も参加している人もいて、年を重ねるごとにレベルアップしてきて、「いい音を出すテクニック」という、1段階上の講座に参加することができるようになった人もおり、地域の笛のレベルアップに繋がっていると思う。また、県内の他地域の囃子をお月見コンサートで披露してもらっているが、そろそろ有名な伝統芸能は一通り披露してもらおうことができそうなので、今後どのように充実させていくが課題だと考えている。

**【主な意見】**

- ・1%システムでこぎんフェスティバルを支援していく中で、こぎんのモチーフが各所で使われるようになってきたと感じる。この津軽笛の事業もこぎんの事例と同様に、もともとの地域の資源が有名になるという、可能性を秘めた事業だと思う。
- ・楽器の音色に聴き慣れると耳が肥えていく。津軽笛も聴いただけで腕前や笛の種類がわかるようになるくらい市民が聴く機会が増えればいいと思う。

**【採択結果】**

合計点 77.0 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.7
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.3
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.0
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.7
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.2
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.7
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.7
合計		77.0

● 3：乳井 夏のフェスティバル／乳井町おこし協力会

**【質疑応答（抜粋）】**

Q：行事の中にねふたが組み込まれているが、今までにねふたを町会で作ったことがあるか教えていただきたい。

A：約30年前にねふたを作ったことがある。今回は子ども向けの小さいものを作る。ま

た、同じ石川地区の大沢町会が毎年ねふたを作っているの、なんとか1回乳井まで来てもらいたいと依頼したところ、大沢で参加を検討してくれているところである。

Q：夏のフェスティバルを通じて新たにまちづくりに参加する人を引っ張り出すことで、平常的にどのようなことに参加してもらいたいと考えているか教えていただきたい。

A：獅子舞保存会や消防団などに若い人が参加しなくなったので、今回のフェスティバルを通してそれぞれの団体のPRや体験をしてもらい、町会の全体を集めて関心を持ってもらいたいという思いで今回の事業を実施する。これをきっかけに、各団体が以前からやってきたことを継続してもらえるようになればいいと思っている。

Q：乳井神社の三十三年式年祭に絡めてこの事業を実施する中で、最も重要視している部分は何か。

A：乳井神社の三十三年式年祭は、33年に1回行われる奥の院から神様を見せるための行事であり、地域内外から多くの人を訪れるため、この地域と地域の中にある歴史をPRしていくことを重要と考えている。歴史のPRだけをしてなかなかみんなに楽しんでもらえないので、楽しいことを混ぜながら住民を引っ張っていき、行動に移させたい。

#### 【主な意見】

- ・これまで町会内の環境を整備してきて、町会の方々の意欲が高まっていると思うので、1%システムで支援して、住民が町会の行事に楽しく参画できるきっかけを作ってあげることによって、次の活動に結びつくことを期待したい。
- ・1次募集で採択された整備事業に関するプレゼンの中で、三十三年式年祭に合わせて、より効果が大きくなるようなことを何かやりたいと話していて、実際にいろいろみんなで計画して申請してきたのが今回の事業なので、中身が盛りだくさんで総花的ではあるが、その意欲は買いたい。
- ・地域の人たちが地域の行事に参加できる選択肢を増やすためにこの行事を作って、それぞれの人得意なことができるように配置したというイメージで考えれば、中身が盛りだくさんなのも納得できる。
- ・ぜひマップ作りに力を入れていただきたい。既成のマップにただ写真を載せるのではなく、今まで知られていなかったものを紹介したり、手書きでマップを書いてコメントを入れてみるなど、地元ならではのマップを手にとった人が「歩いてみたい」と思えるものを作っていただきたい。

#### 【採択結果】

合計点 72.7 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.2
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.3
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.3
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.7
合 計		72.7

● 6 : 大沢サマーフェスティバル／大沢サマーフェスティバル実行委員会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 今回のテーマは「健康」だが、1日学ぶだけでは参加者の健康習慣につながりにくいと思うので、どのように習慣化していくことに繋げるのかを教えてください。

A : 今回、血圧測定のほか、なかなか機会がない血管年齢測定を行うため、自分の健康状態を知る機会になる。若い人だと健康のために走ったり歩いたり運動したりできるが、高齢になるとだんだんそれが難しくなるので、講師からの意見も交えながらみんなで話し合っって今後に繋げていきたい。

Q : 減塩食の調理実習はどのように行うのか。

A : 前年度までの防災炊出し訓練で、たくさん的人数分を作ることに対応できるようになっている。実行委員だけでなく、町会内の高齢者のアドバイスを受けながら、若い人にも協力してもらい、子どもたちも参加させて行いたい。

Q : これまで3年間1%システムを活用して実施してきて、町会全体のコミュニケーションの部分で変わったと感じるところがあれば教えてください。

A : 大沢だけでなく、石川地区の横のつながりも強くなっており、地区内の事業を真似してやってみようということもある。今後ますます人口が減少していくので、いずれは地区のみみんなでコラボして何かやってみようという話が若い世代の中で出始めているので、地域のみみんなを巻き込んでいきたいと考えている。

【主な意見】

- ・これまでの防災訓練ではなく、町民からの声も反映して健康をテーマにしたとのことだが、今まで参加できていなかった1人暮らしの高齢者に声掛けするなど、普段なかなか

外に出ない人が外に出る機会になるように工夫をしていただきたい。

- ・この活動の中で、特に婦人部など女性陣が高齢層を集めたいということであれば、伝統食は口に馴染んでいても各家庭の味が顕著にあるものなので、調理教室の題材としては「けの汁」ではなく、あえてまったく違う減塩の献立を選ぶという方法もあると思う。
- ・昔ながらの津軽のけの汁を子どもたちに受け継いでもらうためにも、出汁の効いたもので作ると薄味でもおいしいと学んでもらいながら、けの汁にこだわって欲しい。
- ・若い人がとにかく頑張っていて、毎年企画を提案できるコミュニティ力の強さを感じる。人をたくさん動かすのは大変だと思うので、工夫を凝らしていろいろな事にチャレンジしていただきたい。

### 【採択結果】

合計点 75.3 点  $\geq$  60.0 点  $\Rightarrow$  採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.7
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.7
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.7
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.7
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.3
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.3
合計		75.3

### ● 1 : おこまりごと（無料）相談室／津軽保健生活協同組合

#### 【質疑応答（抜粋）】

Q：事業の周知方法を教えていただきたい。

A：近くのショッピングセンターにポスター掲示をするほか、チラシを各施設に配布する。また、当日には会場周辺で声掛けをする予定である。まずはできるところから始めたいと思っている。

Q：津軽生協ではいろいろなところを活動拠点にして活動を広げている事業もあるが、最終的にどのような形を目指しているか教えていただきたい。

A：地域の医療機関として、患者からは相談を受けることができるが、患者以外にもたく

さん悩みを持っている人がいるのではないかと思います。少しでも地域の方が気軽に相談できる場を作りたいということで、門戸を広げて、自分達のスキルを活かした形で地域に貢献したいと思い、お悩み相談室の事業申請に至った。

Q：対応するスタッフはどのくらいの人数で、どのくらいの相談に対応するのか。

A：スタッフは全部で20人程度を考えているが、最初の日にはスタッフの人数を多く配置する予定で、状況を見ながら対応したい。当団体の医師なども相談の受け手としてボランティア活動を、ぜひやりたいという声があがっているので、可能な限りの相談に対応したい。開催時間は午後の半日なので、1人あたりの相談時間が20分だと想定すると、スタッフ1人につき担当できる相談者が10人くらいになると思う。

### 【主な意見】

- ・ヒロロにある多世代交流室を会場にする場合、ヒロロにチラシを置くのがとても有効だと思う。3階の行政スペースだけでなく、いろいろなところにチラシを置かせてもらえばたくさんの人の目に入るので、お願いしてみてもどうか。
- ・健康増進リーダーの派遣依頼をして体操をすると、健康ホールを無料で使うことができるので、相談の順番まで待っている間に運動を取り入れるなど、相談者が利用しやすくなる工夫も検討していただきたい。
- ・スーパーや公共スペースにはさまざまな事情を抱えている人がいるので、将来的にはさまざまな場所で相談室を実施してみてもよいのではないかと感じた。

### 【採択結果】

合計点 84.0 点  $\geq$ 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.3
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.2
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.2
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.7
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.7
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.7
合 計		84.0

●4：“認知症、正しく知って楽しく予防しましょう

／特定非営利活動法人ひろさきレクリエーション協会

【質疑応答（抜粋）】

Q：忍者体験と津軽塗研ぎ出し体験を組み込んだねらいについて教えていただきたい。

A：忍者体験は、昔の遊びをする空間で、子どもたちを認知症サポーターのお話を聞く場へ行くまでのルート作りとして行う。また、その体験をお年寄りと一緒にすることが認知症予防につながることをサポーターにお話していただくかたちをとる。津軽塗研ぎ出し体験では、作業しながら食文化を考えたり、津軽塗箸を使った思い出の回想へ向かうことを目的としている。

Q：認知症サポーターと相当な打ち合わせが必要なやり方を感じるが、どう考えているのか。

A：去年は打ち合わせに時間がかかることから違う体制をとっていたが、今年はチャレンジしてみようということになった。大変ではあるが認知症予防の有効性があると見込んで、去年からサポーターとも構成を練っている。

Q：一般対象の認知症サポーターの話を聞けば、サポーターとして認定してもらえるのか。

A：認知症サポーターの講義を受けたことを証明するリストバンドが配られる。

【主な意見】

- ・昨年と同じようなテーマでも全く同じ方法を続けるのではなく、あえて難しそうな内容や対象者に変えて取り組んでみようという、団体の前向きな姿勢は素晴らしいと思う。
- ・認知症をメインにしている団体ではなくレクリエーションを主旨とした団体として、「得意分野を生かした中で、認知症の問題にも取り組みたい」という活動であるという捉え方が必要である。

【採択結果】

合計点 63.7 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点



審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.0
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	5.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	5.8
合 計		63.7

● 9 : DOG FES IWAKI 2018 / DOG FES IWAKI 実行委員会  
【質疑応答 (抜粋)】

Q : 昨年度の反省点として、スタッフの人数が足りなかったことを挙げているが、それを補うために今回取り組むことがあれば教えていただきたい。

A : 作成時期が6月以前のため対象外経費ではあるが、スタッフ募集のためのチラシを作り、いろいろなところに配布をお願いしている。実行委員も去年から3名増えており、確実にスタッフ・ボランティアスタッフともに増やすことができると考えている。

Q : 自立に向けての感触について、現時点でどのように感じているか教えていただきたい。

A : 感触的にはまだ出店やワークショップ等の参加募集を始めたばかりなので何とも言えないが、予算を立てた通りの額には到達する見込みである。協賛金も同様に、予算どおりになるのではないかと見込んでいる。

Q : しつけ教室やレクリエーションのほかに、ペットについて相談できるブースを設けることは考えているか。

A : 青森県動物愛護センターに、飼育に関するアドバイスを受けられるブースを設けてもらう予定なので、「終生飼育」ということもあわせて、実行委員会の方でしっかりPRしていきたいと思っている。

【主な意見】

- ・ ペットを大事にできるまちづくりはとても大事なことだと思う。
- ・ 昨年参加した人からは、犬を通して人同士が交流を広げていくことができ有意義だったという意見を聴いているので、今年も応援したい。
- ・ 災害時に施設の脇に犬用のブースが作られても、なかなか慣れることができないという

話を聞いたことがあるので、ぜひこのように新しい企画として災害時準備コーナーを作る際には、情報だけではなくアクションに繋がるような指導をしていただきたい。

- ・三本木農業高校の「命の花プロジェクト」は、高校生が自主的に行っている珍しい活動なので、この事業を通じて動物愛護センターの活動とあわせて広めていただきたい。

**【採択結果】**

合計点 78.0 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.1
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.0
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.6
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.2
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.2
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.8
合計		78.0

● 2：松森町津軽獅子舞のしおり作成／松森町津軽獅子舞保存会

**【質疑応答（抜粋）】**

Q：会員のほとんどが松森町以外の住民ということだが、この会に集まることになったつながりについて教えていただきたい。

A：以前松森町に住んでいて引っ越した方や、ご友人、ねふたまつりやお山参詣で囃子方をやっている方が「獅子舞の演奏もしてみたい」ということで参加している。

Q：来年度以降の事業内容について、平成 33 年度まで希望しているが具体的にはどのような活動となる予定なのか。

A：今回は獅子舞の由緒など基本的な内容のしおりを作成する。次年度以降は子ども向けのしおりや、練習風景や連絡用のQRコードなどを掲載したパンフレットのようなものを作成したいと考えている。

**【主な意見】**

- ・獅子舞の情報を届けたい人や情報を必要としている人が確実にしおりを手にとれるような配り方を考えていただきたい。

- ・大学や学校はもちろん、関連するところでも名刺代わりにたくさん配って連絡を求めるようにすれば、人も情報もたくさん集まると思う。ぜひたくさんの人に周知して、後継者を育てていただきたい。

#### 【採択結果】

合計点 76.5 点  $\geq$  60.0 点  $\Rightarrow$  採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.3
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.9
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.6
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.5
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.8
合計		76.5

#### ● 17：コミュニティシネマ事業「harappa 映画館」／NPO 法人 harappa

##### 【質疑応答（抜粋）】

Q：以前行っていた上映前後に上映会来場者同士の交流を図れる「シネマサロン」の開催は考えていないのか。

A：借用していたカフェがなくなってしまったため行わない。また、別事業で店舗へ半券を持参することでサービスを受けられる取り組みも実施したが、経費の面や専門分野ではないことからバランスをとるのが難しかった。今回は他の団体がすでに作成した街歩きマップやフリーペーパーを活用させていただき、お互いにメリットを大きくしたいと考えている。

Q：通常の映画にあるようなコマーシャルの上映は行わないのか。

A：すでに行っている。また、他の映画上映団体のイベントにおいて、無料ではあるが自分たちのコマーシャルを上映してもらっている。

Q：映画を見たあとに、見た映画について語り合う場を設ける予定はあるのか。

A：なるべく行おうと考えている。特に上映作品の監督にお越しいただく際は、監督によるトーク、その後質疑応答も行う。かなり白熱した議論になることもある。

【主な意見】

- ・弘前の映画館で見たい映画が上映されていない場合、高齢者などの交通弱者は簡単に遠くの映画館へ足を運べないので、必要な活動である。
- ・弘前は見る映画の選択肢が少ないので、普段見られない映画を見る機会を1回でも2回でもいいので増やしていただきたい。これからも継続して、映画館を常設できるぐらいを目指していただきたい。

【採択結果】

合計点 79.8 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.0
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.0
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.2
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.4
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.4
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.6
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.6
合計		79.8

● 18 : harappa こどもびじゅつ部/NPO 法人 harappa

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 外部講師は「彫刻家」とあるが、彫刻系の教室を開催するのか。

A : 小学生向けだと内容面・安全面ともに難しい部分があるため、粘土で動物を作って着色し、好きな場所に置くというような内容で考えている。

Q : 全6回の開催は、各回完結なのか、全て参加する必要があるのか。

A : 各回完結で計画している。別事業で、すべての回へ参加していただき、最後に展示会を行い完結させるやり方を実施しようと試みたが、実現に至らなかった。地元の作家や構成員が専門としているプログラムを検討しており、なるべく多ジャンルにし、興味のあるプログラムへ参加していただきたいと考えている。

【主な意見】

- ・芸術においてテクニックの上手下手や評価にとらわれず、自由に自己表現できる場が少

ないので、その機会が増えることはいいと思う。

- ・子どもが楽しむ姿を親が見ることで、子どもが美術などに触れる機会が増えることもあるので、親子で学ぶ企画があってもいいと思う。

**【採択結果】**

合計点 79.3 点  $\geq$  60.0 点  $\Rightarrow$  採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.6
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.2
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.4
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.5
合 計		79.3

- 21 : スポーツ指導者講習会&青少年のスポーツ環境フォーラム～部活動がなくなるときの、指導者、地域はなにをしていくべきか～/特定非営利活動法人 スポネット弘前  
**【質疑応答 (抜粋)】**

Q : 今回の事業で一番重要視しているのは指導者の講習会なのか、フォーラムなのか教えていただきたい。

A : もちろん指導者の講習会も大事だが、これからの子どもたちのスポーツを取り巻く環境を不安に思っている先生や保護者が多いので、みんなの不安を出し合い、今後どのような形を作っていけばいいのかという共通理解を示せる場として、フォーラムに力を入れたと思っている。

Q : 小学校の時に全国レベルで優勝しているのに、中学校でその部活がないため違う部活に入らざるを得ないといった声や、近くに所属したい部活がない子どもたちもいるといった声を聞いたことがあるので、必要性を感じる事業だが、団体では、今後どのように事業を進めていこうと考えているのか教えていただきたい。

A : 新たに部活動を作るとなると、部員の取り合いになってしまう難しさもある。しかし、子どものスポーツ環境は、10年・20年後の将来を考えた上でどのような形を作るかといった議論を重ねながら、今こそ思いきって仕組みを変えていく必要があると思う。

## 【主な意見】

- ・フォーラムで課題を多くの人に伝えて共有することはとても大事だと思うので、たくさんの方のスポーツ関係者を集めていただきたい。
- ・フォーラムの位置付けを大事にしていきたいと思う。弘前にとっては何が必要でどのように動かしていかなくてはいけないかという、議論する点をきちんと定めた話し合いの場にしていただきたい。
- ・指導者の問題については、弘前市内の小中学校の部活・スポーツ少年団の現状や指導者の分布、人材の把握など、スケールの大きな問題があると思うので、フォーラムの位置づけも、それらの問題に繋がるようなものになればいいと思う。

## 【採択結果】

合計点 84.7 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択(申請額どおり)

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.4
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.7
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.4
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.4
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.4
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.9
合計		84.7

## ● 2.2 : 障害者スポーツ環境整備事業～定期的な活動場所の提供

～ユニバーサルスポーツクラブ開催/特定非営利活動法人 スポネット弘前

### 【質疑応答 (抜粋)】

Q : この事業のねらいは、選手になるような人の養成なのか、障がい者の余暇利用に関わることなのか教えていただきたい。

A : スポネット弘前の団体理念が「みんなで楽しむ」ことなので、底辺の拡大である。ただ、競技志向になってきた場合、例えば車いすバスケットと青森市にチームがあるのでチームに参加できるようにするなど、種目によってはさまざまな団体があるので、参加者と団体を繋げることもできると思う。

Q : 障がいの種類によってはできない種目があると思うが、どのように考えているか。

A：障がいは一括りにできないし、レベルによって全く違うので、現段階ではルールにこだわるよりも、スポーツに触れてもらうことを重視して進めていき、いずれは障がいに応じてどのようにやっていけばいいか、指導者とスタッフで判断していきたい。

Q：来年度以降補助金を要望しない予定となっているが、対象となる人や内容が複雑で、仕組みができるまで何回か改善が必要だと思われるが、どのように事業を進めていく予定か教えていただきたい。

A：この事業に関わるスタッフや参加者を増やしていかなくてはいけないので、まずはきっかけづくりのために広くやっていきたいと思っている。申込用紙に、どのような障がいがあるか書いてもらうことで事前に情報を得て、対応方法を考えていきたい。また、どのような人が参加してくれるか予想できないので、ボッチャのような、障がいが重くてもできる種目を選んだり、参加者の希望に応じて考えていきたい。

Q：対象が「どなたでも」となっているが、成人だけでなく、子どもも含まれているのか。

A：主に参加してもらいたいのは大人だが、誰でもできる種目を選んでいるので、子どもでも保護者と一緒に来てもらえれば対応したい。対象を広くすると逆に参加者が集まらない場合もあるので悩ましいが、子どもと大人が一緒になると危険な種目の場合は、対象を絞らなければならないと考えている。

#### 【主な意見】

- ・子どもと大人が一緒にスポーツをする場合、安全への配慮がとても重要になってくると思うので、受け入れる際にはボランティアの確保や、障がいのタイプによる特性をしっかりと把握し、対応できるような体制づくりをしていただきたい。

#### 【採択結果】

合計点 83.3 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.6
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.0
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.4
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.0
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.4
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.4
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.5
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.9
合 計		83.3

6月16日審査結果 (22事業のうち11事業)

採択とする事業 11事業



# 平成30年度第1回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（2日目）

日 時：平成30年6月17日（日）

午前8時45分～午後4時40分

場 所：市役所市民防災館4階食堂（レストラン Pomme）

出席者：審査委員 土井委員、安田委員、鴻野委員、齋藤（秀）委員、藤田委員、柴田委員、山形委員（事業番号10まで）、齋藤（紀）委員、垣内委員（事業番号10まで）、三橋委員、熊木委員、一條委員、木田委員、川村委員  
市民協働政策課 佐藤課長、堀川補佐、中村係長、齋藤主査、阿保主査、村上主事、菊地主事

## 1 公開プレゼンテーション・審査会

6月16日に引き続き審査

《審査内容》

### ●15：「ひろさき美術館3」／弘前 アートプロジェクト実行委員会

#### 【質疑応答（抜粋）】

Q：開催中に常駐するスタッフはまんなかづくり実行委員会の方なのか、団体構成員なのか、新たなボランティアの方なのか。

A：まんなかづくり実行委員会の方と構成員でシフトを組み、さらにボランティアスタッフも募集したいと考えている。

Q：弘南鉄道と連携を図るという点について、巻き込み方やプランがあれば教えていただきたい。また、それに対する弘南鉄道側の反応はどうだったか。

A：採択前のため、先方へはまだ伺っていない。駅舎内だけではなく電車内にも作品を展示したいと考えているため、その点で協力いただきたい。

#### 【主な意見】

- ・開催場所に関して、入りづらいと感じる方のために気軽に入りやすいような工夫をしていただきたい。
- ・前回含めて他のイベントと時期を合わせて開催して人を呼び込むのが上手いと感じる。今回会場が土手町側のメインストリートからは外れているが、どう繋げるのか楽しみである。
- ・駅舎はなくなっても弘南鉄道はなくなるというところからも、ぜひ上手くタイアップをして、大鰐側の方々も惹きつけられるような、広く大きな事業にしていきたい。

【採択結果】

合計点 78.6 点  $\geq$  60.0 点  $\Rightarrow$  採択（申請額どおり）

※審査委員 14 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.0
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.3
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.6
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.4
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.9
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.7
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.9
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.7
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.9
合計		78.6

● 7 : 「無料接客中国語セミナー・観光中国語ボランティア事業」 / 弘前市中国語を楽しむ会  
【質疑応答（抜粋）】

Q : ホームページの作成費について、7月から3月までの期間にかかる経費としては高いと感じるが、その金額をかけて短期間の為に外注する必要性について、団体の考えを教えてください。

A : 弘前から中国に発信して、弘前と中国の架け橋になるという思いでホームページ作成を考えているが、経費を節約してもさまざまな方法があるということなので、もっと経費を節約する方向へ進めたい。

Q : 講座の開催日の間隔が少し空きすぎているので、もう少し集中的に開催したほうがより効果が大きいように感じたが、間を空けた理由を教えてください。

A : 講師の仕事の関係でもあり、講師の空き時間を利用してセミナーを開催したいと思っている。セミナーに参加してみて、やる気がある人は、当団体で普段開催している教室に来ていただきたいと思う。

Q : 商店街の方などと本事業についての説明会や打ち合わせを行っているのか。

A : 商店街の方向けに中国語講座を開催したい旨を伝えたところ、協力したいという話をいただいた。業界ごとに接客の用語があるので、フォーマットを作成中である。旅館組合・ホテル組合などにも声掛けをしてはどうかというアドバイスをいただいたので、まだ話していないが、今後アプローチしていきたいと思っている。

Q：セミナーでは個別の教材はあるのか。

A：教材は使わないが、観光の用語や商店街のおもてなしのための用語については、既存のものを使いながら進めていきたい。発音ができるようになると自信がでてくるので、ネイティブスピーカーの発音を早めに覚えてもらいたい。

### 【主な意見】

- ・Facebook や Instagram の方が無料で楽に作ることができ、他団体や人と繋がりやすいので、まずは簡単に作れるものを活用して、団体として力をつけてから将来的にもずっと使っていけるようなホームページを作っていただきたい。
- ・団体そのもののホームページを作る経費をこの事業の経費として計上することは、この事業の主旨に沿わないのではないかと思う。
- ・中国語は発音に慣れるまでとても時間がかかるので、7月から3月までで4回という回数では、なかなか中国語を話せるようになるのは難しいと思う。講座の中に、実践編として中国人観光客と実際に話す機会を作ることは良いと思うので、絵や写真を使ったコミュニケーションを取り入れることも今後考えていただきたい。
- ・参加費の徴収などで講師謝礼を確保することによって、講師の時間をしっかり確保することで、より内容の濃い講座を実施している例もあるので、将来的にそのような方向で進めるのであれば、他の実施団体に実施方法について話を聞いてみるのも良いと思う。

### 【採択結果】

合計点 69.7 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（ホームページ管理費は補助対象外）

※審査委員 14 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.9
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.1
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.7
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.4
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.6
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.7
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.4
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.6
合計		69.7

● 19 : 岩木山エコプロジェクト／岩木山観光協会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 毎年参加してくれているメンバーはどのくらいいるのか。

A : 少しずつ減っているのが現状である。毎回参加する人もいるが、1、2回参加して、ごみの現状を目の当たりにして、その後来ない方もいる。

Q : 1年で2回清掃活動を実施する予定になっているが、1回目と2回目の内容について教えていただきたい。

A : 1回目は、去年から予定していた場所で実施したいと思っている。2回目は秋ごろの予定で、岩木地区町会連合会や婦人会の人たちに協力してもらい、町会の方々に来てもらいたいと考えている。

【主な意見】

- ・ 1%システムでの支援がなくなり、活動をやめてしまうと、不法投棄のゴミが増える一方である。補助金額50万円の上限に合わせて、できる範囲で続けているという状況なので、ぜひ続けていただきたい。
- ・ 上限額や審査の仕方において特別枠を設けたいくらいの事業だと思っている。今後、ほかの事業でもそのようなものが申請される可能性があるので、特別枠のようなものも考えてみていいかもしれない。

【採択結果】

合計点 84.7 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択 (申請額どおり)

※審査委員 14 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.4
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.9
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.4
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.1
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.3
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.7
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.9
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.7
合 計		84.7

● 12：主体的に生きる力を育む「キャリア教育・ドリームマップ授業」

／ドリームマップ@ひろさき

【質疑応答（抜粋）】

Q：事業の後に、学校のその後のキャリア教育プログラムと密接に提携してフォローアップする事が大事だと感じるが、団体の皆さんが将来的に目指したいあり方・ビジョンを教えてください。

A：子どもたちの夢が実現するというより、子どもたちが主体的に人生を歩んでいけるようになることを目的としている。昨年弘前で実施した事例では、キャリア教育でさまざまな勉強をしてきて、最後にそれらをどのように自分の人生と結び付け、ふるさとのことを考えていくかといった、キャリア教育の集大成として考えているという話があった。

Q：多くの小学校は、年間の指導計画が前年度のうちにほぼ決まっている中で、昨年ほどのようにして1日を授業に充てることができたのか教えていただきたい。

A：総合学習の主テーマが「キャリア教育」の学校では、学校のテーマにぴったりだということで導入してくださった。また、少し自己肯定感が低い子どもが多くて何とかしたいと思いを持った先生が導入を希望してくださるなど、たまたま学校側の需要と自分たちの供給が一致したというタイミングもあったと思う。

Q：ほとんどの学校で行っているキャリア教育のかたち（職業紹介）とは違うので、授業実施を受け入れてくれる学校を探すのが大変だと思うが、どのように学校にアプローチするのか教えていただきたい。

A：去年はかつての同僚や後輩に、ドリームマップはキャリア教育ではあるが、道徳的な要素もあり、学級間の仲間意識を育てるような特別活動的な要素も持っているということを直接説明し、理解を得たことで実現したが、今年はもう少し幅を広げて学校にチラシを持参し説明する。将来的には全学校市内の全小学校に配布するという事で考えている。

Q：弘前市内での実施校を増やしていきたいということだが、現在構成員が6名で、どれくらいの学校に対応できるのか。もっと構成員を増やしてくという考えもあるのかも含め教えていただきたい。

A：人員を増やしてから授業を行うということだと、なかなか目途もつかないので、授業の開催校を増やすこととメンバーを増やすことを並行してやっっていこうと思っている。

【主な意見】

- ・構成員のための研修に関わる費用についてはケースバイケースで、その事業を継続するためにどれくらい重要かということ各個人が判断して採点するという事で良いと思う。
- ・それぞれの子ども個性なども考慮しながら事業を進めることができれば良いと思う。
- ・将来的にこの事業がどうなっていくか、具体的に思い描きづらいところはあるが、継続していくうちにスポネット弘前のゲンキッズ事業が市の事業として移り変わっていったように、市で事業化する可能性もあると思うので、今年はぜひ継続していただきたい。
- ・子どもたちのために行われている学校外授業の活動はたくさんあり、どこまでを1%システムで支援すればいいのか、また教育委員会で1つの事業を取り上げればいいのかは

判断が難しいが、子どもたちに自主性を持ってほしいということで一生懸命活動されている活動の1つだと思うので、ぜひやってみていただきたい。

**【採択結果】**

合計点 67.6 点  $\geq$ 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 14 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.9
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.7
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.6
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.6
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.3
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.1
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.6
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.6
合 計		67.6

● 10：リサイクルステーション モデル事業／特定非営利活動法人もったいないつがるの会

**【質疑応答（抜粋）】**

Q：電動コンポストの設置場所が店舗前を予定しているが、生ごみの臭いなどの問題はないのか。

A：臭いはほとんどない。15年間札幌・旭川で使われているが、苦情は最初の頃に、真夏に3件ほどあっただけだった。また、消臭シートを使うことで、1件の苦情もないようにしたい。

Q：電動コンポストに溜まった生ごみたい肥の処理方法を教えていただきたい。

A：札幌と旭川のように何基もある場合は、ホースで吸い取って別の場所で二次発酵させ、たい肥を完成させているが、本事業ではモデル事業で1基のみなので、スコップで生ごみたい肥を取り出し、構成員宅の畑に持って行って、二次発酵させようと思っている。

Q：モニターを行う際に、分別されていないものを仕分けるなどの電動コンポストの管理はどのように行うのか。

A：2週間に1度のペースで、当団体が溜まった生ごみたい肥の回収作業に行く。その間に分別されていないごみが入っていても、電動コンポストはごみを燃やすほどの温度が出ているわけではないので、特に問題はない。

### 【主な意見】

- ・効果がどのくらい出るかは、今後の事業にも関係してくるため、モニターからデータを取ることはとても大事だと思うので、モニターには用紙の書き方をしっかりレクチャーするなどして、しっかりとデータを取っていただきたい。
- ・参加者を集めることがとても大変だと思うので、ただチラシをスーパー等に置くだけでなく、周知のしかたを工夫していただきたい。
- ・電動コンポストの設置場所が店舗の前なので、店主とは十分打ち合わせをして、注意しながら進めていただきたい。
- ・1つのエリアでまとまって実施していくことが今回の大きなねらいで、モニターとしての参加方法の選択肢も3つ用意しているのだと思うので、町会の関わり方や、電動コンポストの管理方法などの地域の体制をしっかりと確認して、来年以降の参考にさせていただきたい。

### 【採択結果】

合計点 71.6 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 14 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.1
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.7
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.3
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.0
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.9
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.1
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.6
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.6
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.1
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.1
合計		71.6

### ● 5 : 子ども達に CAP を届けよう 副題「あなたは大切なひと」

／あおもり CAP の会中弘南黒地区

### 【質疑応答（抜粋）】

Q : モデル校の幼稚園、小学校にはどのくらい参加してもらえそうか。

A : 市内の2園から希望があり、実施する。小学校は1校で検討中である。

Q : 実際の授業では、認定された人が授業を行うのか。

A : 一般社団法人 J-CAP T A の養成講座を受け、CAP スペシャリストとして認定さ

れた人が地域の大人、教職員、保護者、子どもに「CAPワークショップ」を提供できる。

Q：その他費用で「プログラムの利用料」が計上されているが、1セット2万円となる根拠を教えてください。

A：通信費、印刷費、資料代、事務費、活動などに使われている。学校にワークが入ると、事前にその学級の子どもの様子を見て、どう対応すればいいのか検討したり、ワークショップが終わった後も、頻繁に学校に行って、先生を支援ために学校を訪問するという資金も含まれている。

Q：ワークショップ利用料の合計20万円が構成員のところに入るのであれば、構成員に入る分を対象外経費としなければならないが、それでも事業を実施するか。

A：公開講演で市民への周知や広報をすることももちろん必要だが、「CAPプログラム」を子どもたちに届けることが本願なので、ワークショップ利用料が補助対象外であっても、PTAや諸団体の協力・支援を得られるように働きかけて実施していきたい。協力が得られなければ、団体の負担になるが、計画したとおりに実施する。

#### 【主な意見】

- ・「プログラム利用料」を1回に2万円としているのが、いわゆるどんぶり勘定で、根拠がないものになっているので、団体への報酬のように感じてしまう。
- ・弘前市内で子どもに対する事件は、現段階ではあまり問題が表面化していないため、事前に防止するために、子どもたちに暴力防止について届けたいという気持ちは理解できる。

#### 【採択結果】

合計点 60.7 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（ワークショップ代は補助対象外）

※審査委員 12 名で審査採点



審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.7
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.7
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.5
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	5.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	5.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	5.3
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	5.7
合計		60.7

● 8：“わ”と“な”の生き生きサークル3 / “わ”と“な”の生き生きサークル実行委員会  
【質疑応答（抜粋）】

Q：スタッフは常時何人くらいで運営しているのか。

A：1会場につき4～5人で運営している。また、実行委員会の新規メンバーのうち4人は修了者で、自主的に手伝いたいと言ってくださった方である。

Q：会場が増えたが、スタッフは対応できるのか。

A：松ヶ枝などから新しい健幸増進リーダーを探すことができたので、対応可能となった。

【主な意見】

- ・男性が参加できるようなプログラムを用意することが課題だと思う。例えば、道具を修理・作製することや写真を撮って記録してもらうなど、役割を先にお願ひしてついでに参加してもらうような、男性を引っ張り込む方法を考えていただきたい。
- ・高齢者にとって、今後車の運転が困難になることをふまえると、集会所など身近なところでの開催はとても助かると思う。
- ・構成員の気配りがよく行われていて、健康に関する情報交換の場にもなっている。この先の戦略についても、きちんと参加者を見たらうえで考えられているのがよい。たくさんの方の輪を広げて、様々な場所で活動していただきたい。

【採択結果】

合計点 84.8 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.2
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.7
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.5
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.3
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.7
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.5
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.3
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.5
合計		84.8

● 16 : 「家の整理は 心の整理」 シンプルで心地よい暮らしを一緒に見直してみませんか  
 / 弘前友の会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 参考までに、会独自の拠点を持っているか教えていただきたい。

A : 会独自の集会所を持っている。会設立当初は、今のように無料で使える公共施設が無く、有料でさまざまな場所を借りて活動をしていたが非常に使いづらかったため、バザーなどをしたりしてみんなで少しずつお金をためて、土地を買い、建物を建てて使っている。

Q : ただ講演会で終わるのはもったいないという印象を持ったが、今回は参加者には講演の話聞いてもらうことがメインになるのか。

A : 講話がメインになるが、心の整理をしてまた片づけをする、意欲を沸かせるということには何かしらの機会も必要なので、当会ではそのような機会を提供していったり、自分ではどうしても片付けできないという方の要請があればお手伝いすることも考えている。

Q : 整理整頓のノウハウを各家庭に持ち帰るだけでなく、家庭が社会から分断されている状況をつなぐために、集まった方々で情報交換するような場を意識して作る、あるいは今ある場を更に広げるような取り組みをミックスすると、さらに素晴らしい活動になると感じたのだが、団体で何か工夫していることがあれば教えていただきたい。

A : 今、子育て世代に向けて、「ひまわり」というグループを会で持っており、会員だけではなく、一般の方もご自由に参加できる。若い参加者同士がつながって子育ての悩みを伝え合っており、その場を気に入ってもらえれば友の会の会員になることもある。

Q : 1次募集で申請していれば、補助金の対象となる経費がもっとあったようだが、1%システムのことを知ったのはいつ頃か。

A：制度を知ったのはだいぶ前だが、今まで自前で活動できていたので、会で補助金を活用することは考えていなかった。3月下旬ごろに事業内容が決定し、いつもより経費がかかるので、会の先輩からは寄付するとの声もあったが、自分たちの力でなんとかしたいと考えていたところ、1%システムを思い出した。その時点で二次募集が始まる頃だったので、二次募集で応募したという経緯がある。

#### 【主な意見】

- ・いつもは自分達の手で活動しているが、どうしても今回はこの講師の方を呼びたくて、仲間内だけでなく広く市民に聞いてほしいという趣旨なので、ぜひ叶えてやりたいと思う。
- ・参加費800円という設定だが、ワンコインくらいの設定にして、より多くの人に参加してもらおうという選択肢もあるのではないかと思った。
- ・会の先輩の力を借りるのは簡単だけれども、自分たちの力で事業を実現してみたいという意欲をとっても評価したい。
- ・弘前友の会のみなさんのように、まだ1%システムを使おうという考えになっていない団体はまだたくさんあると思うので、いろいろな人に、やりたいことがあるのであれば1%システムの活用を検討して欲しいと思った。

#### 【採択結果】

合計点 77.3 点  $\geq 60.0$  点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.5
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.3
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.2
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.7
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.5
合計		77.3

#### ● 14：みんな集まれ！！（ジジババ、トッチャン、カッチャン、君と僕）／向外瀬町会

##### 【質疑応答（抜粋）】

Q：行事の中に焼き芋体験があるが、過去に1%システムを活用して整備した交流農園で

育った芋を使用したり、農園での芋ほりが行事の中に入っているか教えていただきたい。

A：交流農園でも同じような企画をしており、町会の行事と合わせて行いたいと思っている。交流農園は諏訪神社から近いので、神社の杉の葉や小枝を町会の別団体をお願いして農園まで運んでもらい、それを火種にして焼き芋体験を行うというかたちで、地域の各団体をつないでいくことを考えている。今までそれぞれの団体に任せてやってきたが、今回はつながりを持たせることで、違った動き方ができるのではないかと考えている。

Q：今回の事業の主旨が、既存団体の活性化ということで、それらの団体の活動を束ね合同のイベントを作ることで、より人が集まることはわかるが、各団体に入会してもらうために考えている工夫などがあれば教えていただきたい。

A：今までは各団体が、ほかの団体が何をしているのかわからない状態だったため、各団体の活動を全体に周知してもらい、何かの役割で地域住民が参加できるようにし、それをきっかけに引きずり込むことができれば、その後の活動につながってくると思っている。

1年に1人でも各会の会員を増やし、減少した会員の補充・維持までこぎつけたいと考えている。

#### 【主な意見】

- ・地域での活動に、大人だけでなく子どもを巻き込むことはとても大事なことなので、ぜひ頑張ってください。
- ・どこも同じ問題を抱えている中で、本当に果敢に挑戦しているという印象である。今回の試みに、1%システムを活用したことで、市も応援しているのだということが町会にも伝わって、人が集まるきっかけができればいいと思う。また、それによってこのような活動が他地域にも波及していくことを期待したい。

#### 【採択結果】

合計点 83.2 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.7
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.5
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.0
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.2
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.7
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.2
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.7
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.5
合計		83.2

● 11：十面沢お山の会（お山参詣）／十面沢お山の会

【質疑応答（抜粋）】

Q：昨年の審査会后、市主催で、市政に対する要望を聴く会があり、市指定無形文化財のお山参詣に子どもたちを参加させるために、学校を休ませたくても公休にできないことに対して、教育委員会に対処したほうがよいのではないかという意見を出したが、教育委員会から何か対応があったか。

A：昨年度は公休にはならなかったが、学校には全面的に協力していただいた。

【主な意見】

- ・何年も続いている事業だからこそ地域の若い人たちが先頭に立って、子どもたちに引き継いでずっとこれからも続けていこうという思いがよくわかるので応援したい。
- ・小学生の頃に参加していた子どもたちが中学生になったときに、学校がきちんと公欠と認めれば、子どもたちもお山参詣に参加しやすいと思うので、機会があればそれについてアピールしていきたいと思う。

【採択結果】

合計点 83.0 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.7
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.7
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.7
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.3
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.2
合 計		83.0

● 13 : 東目屋地区・多賀神社の清水大祭とともに ねまり相撲大会

／楽しいね!!東目屋実行委員会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 会場となる多賀神社について教えていただきたい。

A : 階段には手摺りが設置されていて、津軽三十三観音巡りで訪れる方がいる、東目屋の象徴的な場所であり、我々はその場所を大事にしたいという思いで、今回の事業を企画している。

Q : 企画が盛りだくさんで、たくさんの人手を要するのではないかと感じたが、事業を実施するにあたって協力者はどのくらいいるのか。

A : 去年に比べると倍の労力が必要だと思っている。企画を一緒にしているメンバーが12~3名、一声かければすぐに集まってくれる若者が10数名、実行委員会の中心は子育て世代ということで、家族も協力してくれる。それでも人手が足りないので、すでに弘大のボランティアセンターやつながりがある団体に協力してもらえるように連絡済である。地域外からも祭りに来てもらうために、ホスト側として安全にも気を付けてしっかり楽しんでもらうように役員の間でも話し合っている。

Q : 万が一事故があった場合の対応について教えていただきたい。

A : 会場内にはあまり危険はないが、駐車場からの会場にはバイパスを横断することになるので、地区の安全協会に協力してもらう予定である。また、万が一の為にイベント保険料を予算に計上している。ねまり相撲に関しては、すでに大会を行っている小さな親切運動弘前支部に協力してもらい、安全面に関して指導していただいているところで、なるべく事故のないように細心の注意を払いたい。

Q：地域外から来た人に対して、多賀神社や東目屋自体をPRすることは考えているか。

A：祭りは、神社の鳥居の手前にある前庭部分で実施する。祭り当日に東目屋中学校の生徒らによる参拝ガイドツアーを計画しているので、まずは参拝し、東目屋にはよそにはない雰囲気を持った神社があるのだということを知っていただき、元気に地域みんなが笑って生活している場所だという雰囲気を見ていただきたい。この祭りに限らず、今まで地域だけでやってきたような行事だけでなく、豪雪地帯の東目屋ならではの雪の遊びなど、我々の手でさらに何かできることはないか探っているところである。

### 【主な意見】

- ・ねまり相撲は女の子も参加できるし、けがも普通の相撲よりも少ないと思う。また、子どもを応援するために親も参加すると思うので、交流になると思う。
- ・外国人も喜んで参加できそうな行事だと思う。また、市内から離れた地域での催しなので、公共交通に関する情報を付け加えると、市街地からのネットワーク状況を市民全体に教えられる効果もあると思う。
- ・向外瀬、十面沢、東目屋と、3地域の事業申請が続いたが、みんな地域の現状に気づき、課題に向けて行動するという若い世代の声が反映されていて、まさに「まちづくり」だと感じた。
- ・東目屋には、舞台造りがとてもきれいな多賀神社の社殿や、福島藤助氏の発電所など、さまざまな見どころがある。弘前の他の場所とのストーリー付けをするなど、広くとらえて、より一層東目屋をPRしていただきたい。

### 【採択結果】

合計点 79.5 点  $\geq$  60.0 点  $\Rightarrow$  採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.3
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.7
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.0
合計		79.5

6月17日審査結果（22事業のうち11事業）

採択とする事業                      11事業

2次募集事業の審査結果（22事業）6月16日・17日審査合計

採択とする事業                      22事業